



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)クリーンセンター建設工事(工場棟+管理棟)	BEE	0.8	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.5	/5		がんばろう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1	/5		ふつう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.9	/5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3	/5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	
			よい 4点以上	ふつう 3点以上
				がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	2.5
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④耐用年数の長い部品・部材を使用している。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥中高木を植栽している。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨BEIm=0.77 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬冷媒ガスを使用していない。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭燃焼機器を使用していない。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	昼光利用設備	
	3.2 3.2.1 ③	昼光制御	
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	躯体材料の耐用年数	
	2.2.2 ④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
2.2.3 ④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
2.2.4 ④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
2.2.5 ④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
2.2.6 ④	主要設備機器の更新必要間隔		
Q-3 1 ⑤	生物環境の保全と創出		
3 3.2 ⑥	敷地内温熱環境の向上		
LR-1 1 ⑦	建物外皮の熱負荷抑制		
2 ⑧	自然エネルギー利用		
3 ⑨	設備システムの高効率化		
4 4.1 ⑩	モニタリング		
4.2 ⑩	運用管理体制		
LR-2 1 1.1 ⑪	節水		
1.2 1.2.1 ⑪	雨水利用システム導入の有無		
1.2.2 ⑪	雑排水等利用システム導入の有無		
2 2.1 ⑫	材料使用量の削減		
2.2 ⑫	既存建築躯体等の継続使用		
2.3 ⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
2.4 ⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
2.5 ⑫	持続可能な森林から産出された木材		
2.6 ⑫	部材の再利用可能性向上への取組み		
3 3.1 ⑬	有害物質を含まない材料の使用		
3.2 3.2.1 ⑬	消火剤		
3.2.2 ⑬	断熱材		
3.2.3 ⑬	冷媒		
LR-3 1 ⑭	地球温暖化への配慮		
2 2.2 ⑮	温熱環境悪化の改善		
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.1
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰耐震クラスA以上としている。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性	
	2.1.2 ⑯	免震・制振性能	
	2.4 2.4.1 ⑰	空調・換気設備	
	2.4.2 ⑰	給排水・衛生設備	
	2.4.3 ⑰	電気設備	
	2.4.4 ⑰	機械・配管支持方法	
	2.4.5 ⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	2.9
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1 ⑲	階高のゆとり	
	3.1.2 ⑲	空間の形状・自由さ	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲見通しの良いフェンスを使用している。 	Q-3 3 3.1 ⑲	地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.3
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上) ㉑外構緑地指数10%以上を確保した。 	Q-3 1 ⑲	生物環境の保全と創出	
	2 ⑲	まちなみ景観への配慮	
	3 3.2 ⑲	敷地内温熱環境の向上	
<ul style="list-style-type: none"> ■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑲温熱環境悪化の改善) ⑲建築物の見付け面積を小さくするよう努めた。 	LR-2 2 2.5 ⑲	持続可能な森林から産出された木材	
LR-3 2 2.2 ⑲	温熱環境悪化の改善		

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)クリーンセンター建設工事(工)	階数	地上5階、地下1階
建設地	静岡県藤枝市仮宿字白泉161-5他5	構造	SRC造
用途地域	都市計画区域、市街化調整区域、法	平均居住人員	148 人
地域区分	7地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集会所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年12月 予定	評価の実施日	2023年10月4日
敷地面積	14,508 m ²	作成者	廣瀬 智之
建築面積	4,191 m ²	確認日	2023年10月5日
延床面積	8,837 m ²	確認者	廣瀬 智之



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 87%
③上記+②以外の 87%
④上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂ 排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
敷地郊外は緑豊かな地形であり、外観デザインにとりいれることで周辺地域との調和を図っている。敷地内の既存樹木は最大限残置し、緑化面積を確保することで自然環境に配慮している。	0	
Q1 室内環境 ほぼ全面にF☆☆☆☆を使用している。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い部品・部材を使用している。	Q3 室外環境(敷地内) 中高木を植栽している。
LR1 エネルギー BEIm=0.77	LR2 資源・マテリアル 冷媒ガスを使用していない。	LR3 敷地外環境 燃焼機器を使用していない。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される